

AI研究の最先端に触れる 来月22日、北大連携講座

Science Lecture



山下倫央
准教授

講師は、大学院情報科学研究院の山下倫央准教授(49)と横山想一郎助教(34)が務めます。2人が所属する調和系工学研究室は、人工知能(AI)を実社会に役立てる研究に取り組む、俳句を作る「AI-茶くん」を開発したことも知られます。

AIが近年、大きく進化したのは、脳の神経回路をモデル



横山想一郎
助教

人間が作ったかのような文章や画像を生み出す生成AIが登場し、急速に社会に広まっています。デジタル化の波が押し寄せる中、AIの知識を持つ人材はこれからの社会に欠かせません。一線の現場で最先端の研究に触れ、AIの世界への第一歩を踏み出してみませんか。

ルにした技術「深層学習(ディープラーニング)」の登場がきっかけの一つでした。講座では、コンピュータに犬や猫などの画像を大量に読み込ませ、どの動物かを自動識別するAIを「自作」します。入力データをもとに自ら特徴を見つけ出すディープラーニングの仕組みを理解し、AIの基礎についても学びます。

科学の面白さを知ってもらう読売新聞北海道支社と北海道大学の連携講座「サイエンスレクチャー2024」が6月22日に開かれます。10回目の今回は「AI入門ディープラーニングに挑戦」がテーマ。受講する中高生を募集します。

中高生の受講募集

【日時】6月22日(土) 午後2時～4時半

【会場】北海道大学高等教育推進機構(札幌市北区北17西8) 2階E218教室

【対象】中学・高校生

【定員】28人

【参加費】無料

【申し込み方法】応募フォーム(<https://forms.office.com/r/wQwyqELJvg>)からお申し込み



みください。応募多数の場合は抽選となります。当選者の発表は受講券の発送をもって代えさせていただきます

【締め切り】6月9日(日)

【問い合わせ】読売新聞北海道支社総務部事業担当(011・242・5630、平日午前10時～午後5時)

主催＝読売新聞北海道支社、北海道大学

後援＝札幌市教育委員会